

飯綱町の取り組み

自然物を使って 親子で一緒に遊みましょう！！

飯綱町保育園

I 活動設定の理由

飯綱町は、季節の草花・心地よい空気・穏やかなぬくもりが感じられる。このような環境の中に子どもの姿を求めても、自然の中で遊ぶ姿を見かけることが少なくなったような気がする。今日の社会状況からみると、乳幼児期からテレビやゲーム・インターネットなどに囲まれ、学校・保育園の行き帰りに道草ができない時代に育ってきたのだから無理もない。また、大人から子どもへの遊びの伝承が少なくなったこと、少子化で遊び相手がないことなどで、自然の中で心をとくめかす機会が失われているように思う。

自然豊かな環境の中で子ども達は感性豊かに育ち、様々な自然物を使った遊びは、楽しく魅力的であることを子ども達も保護者も知ってほしい。また、身近な自然物と触れることにより命を慈しむ心が育ち、乳幼児期に自然の中で親子一緒に遊ぶ時間を大切にしたいと願い、このテーマを設定した。

II 活動のねらい

- 1 自然豊かな環境の中で四季折々の自然の変化を、五感を働かせ実際に身を持って経験し、豊かな感性を育めるようにする。
- 2 保育の中に自然物を取り入れることにより、好奇心、探究心を持ち自ら遊び込めるようになる。
- 3 保護者への情報提供(展示・おたより等)をすることにより、家庭でも自然物を使った遊びが経験できるようにする。
- 4 園内研修や研修会に参加し、保育者自身が自然物を使った遊びを経験し楽しみ、レポーターを増やして、子ども達や保護者へ情報発信できるようにする。

III 活動の記録

- 1 親子で自然物を使って遊ぶ機会を設ける
 - ・リサイクルシアター「お山のともだち」
 - ・親子で作って遊ぶ（どんぐりゲーム・どんぐり落とし）
 - ・親子で一緒に遊ぶ（とちの実のけん玉・とちの実とどんぐりのサーキット・サーキットの通路作り）

<保護者の感想より>

 - ・自然物を使って何かを作ることは家ではないので良かったです。
 - ・工作は、親が楽しくて夢中になってしまいました。どんぐりで、これだけのレポーターがあって遊べるとは知りませんでした。
 - ・家でもどんぐり拾いまでは楽しみましたが、その後どうやって遊んでいいかわからず、放置されたままでした。家でもいろいろ試したいと思います。

<今後行ってほしい内容は？（保護者アンケートより）>

 - ・体を動かす遊び(大多数)
 - ・他の自然物を使った遊び

〈考察〉

楽しく遊べたという感想が多数あり、良かった。自然の中で思い切り身体を動かして遊べる機会を、保護者の方も望んでいるのだと感じた。今後、検討していきたい。





クズのムカデ



2 自然物を使った遊びの記録（保護者へ提供した遊び●・保育の中からの遊び○）

○6月・・・ヨシの笛(5歳児)

春の遠足で霊仙寺湖に行く。カエルの鳴き声が響き、空気が澄んで「静かだね」とつぶやく子がいた。浮き橋を渡ろうとすると、聞きなれない鳥のさえずりも聞こえてきた。浮き橋の周りには、手の届くところにヨシが生い茂っていた。ヨシの葉を採って茎が丸まっている部分を口に当てて吹く。茎が柔らかくすぐに音が出て、何本も笛を作り高い音、低い音といろいろな音を試していた。その後、カラスノエンドウ、タンポポの茎などで「楽器みたいだね」と言いながら音作りを工夫する姿が見られた。

〈考察〉

自然に触れて遊ぶことは気持ちも開放的になった。やわらかいヨシを口に触れ、音が鳴ることを知り自分で作った笛でいろいろな音が鳴ることに感動していた。空気、湖、木々のにおい、様々な鳥の鳴き声を体感した。保育園では得られない自然の中で、五感を働かせ遊びを満喫している姿を見ることができた。

●8月・・・クズのムカデ(3歳児)

昆虫が大好きなA男。保育士がくずのムカデを作り廊下に飾っておくと、興味を示し、触ったり持ち歩いたり動かしてみたりする日が続いていた。また、ちょうどその頃ブロック遊びに興味を示し自分で工夫しながら作っている姿がみられた。8月下旬、朝の自由遊び中ブロックを長くつなげて何やら足のようものを付けているA男。「ムカデできたよ～」と跳ねながら見せてくれた。よく見ると、クズのムカデにそっくりだった。

〈考察〉

大好きな昆虫だったので、興味を示し見て触って確かめた事により、自分でも作ってみようという気持ちになったのだろう。自然物で遊んだことから更に自分の想像力、思考力が広がった。

○夏・・・泥んこ遊び(2歳児)

裸足になってタライに水をたっぷりを入れてペチャペチャと触ったり、足に水をかけたり、土と水を混ぜての泥んこ遊び。土の中に足を埋めたり、手を埋めたりして泥の中で誰の手か当てる遊びなどをして水と土の感触を楽しんでいる。お皿やカップなどを使ってごちそう作りが始まった。園庭の木蓮の木から木の実がたくさん落ちて、それを拾い集めてローソクに見立てている。草花（タンポポ・シロツメ草・クローバーなど）を摘んできて泥んこで作ったケーキにきれいにトッピングし、ローソクを立ててケーキが出来上がった。コップには泥ジュースが入りみんなで乾杯して盛り上がっていた。友達同士工夫しながら自然物を使って遊ぶことができた。できたものは、「おかあさんに見せようね」「ごちそうしようね」とテラスへ置く。降園時、「ケーキだよ」と嬉しそうに保護者に見せる姿が見られた。



〈考察〉

水や土の感触を楽しみながら泥んこ遊びをしている中で、身近な自然物（草花・木の実）を使って遊ぶことで、ますます遊びが広がり、ごっこ遊びが発展し、豊かなやりとりや会話が聞かれた。子ども達が発見したこと、感じたことに共感し、さらに楽しさが味わえるようにしていきたい。自然に発展した遊びの情報を提供できる場として保護者支援になったのではないだろうか。

● 8月・・・祖父母参観での感想から

<粘土に自然物を付けて動物作り>(未満児)家では色々なおもちゃが山のようにあるのですが、園での自然にある葉っぱ等を利用してこんなにも子ども達が喜んで遊ぶことの素晴らしさを感じさせられました。

<葉っぱで絵を作る>(4歳児)葉を使った工作は時間が少なく完成しませんでした。いろいろ考えて作ることができました。今は何でも買ったおもちゃで遊んでいますが、身近な物で遊べるのだと思いました。

<エノコログサのうさぎ>(全年齢)家でも子どもと一緒に作ってみようと思います。

<エノコログサのうちわキャッチ>(3歳児)昔からある物や自然の物を使って遊ぶことはすごく良いです。ねこじゃらしを、エノコログサと言うとは知りませんでした。

<エノコログサ・メヒシバのランプ>(4歳児)私も昔々子どもだった頃に、この草でかさを作ったなあ。と懐かしく思いました。

● 9月・・・コスモスのプロペラ、メヒシバ・オヒシバの parasol

(保護者の感想より)

・メヒシバの parasol は、私も子どもの頃、親から教えてもらいよく作って遊んでいました。子どもにも教えながら一緒にやりました。よく見ると、家のすぐそばにたくさんはえていました。

・コスモスのプロペラを気に入って遊んでいました。草花に触れ合うと共に、草花の名前や形も覚えられました。「メヒシバ」という名前を初めて知りました。

・コスモスのプロペラを作りました。妹は、花びらを上手に引っぱり張ることができずメソメソしていましたが、兄は上手に4枚の花びらにしていました。思った以上にクルクル回りながら落ちていき、母は感動しましたが、子ども達は「プロペラ」という言葉でもっと早く飛ぶことを期待していたようで「なんだ、これだけ～」と話していました。2階からやってみようと言っていました。

● 10月・・・イチヨウの葉の動物(5歳児)

園庭にたくさんのイチヨウの葉が落ちると「イチヨウの葉の動物」を作り出すB子とC子。キツネを作ろうとするがうまくできず少し残念そう。保育士が「これゾウに似てるね。こっちはネコだ」と声をかけると表情がパッと明るくなり「本当だ。そうだ、これで動物園作ろう」と張り切る。出来上がった色々な動物を画用紙に貼り、マーカーで動物のエサや家も描き、かわいい動物園ができた。

(考察)

前もってイチヨウの葉の動物を展示しておいたことが、落ち葉遊びを啓発したのではないかと思う。また、子どもにとって「失敗」したキツネもいろいろな見方ができることを伝えたことで、動物園を作り上げることができ、改めて保育士の援助の大切さを知った。B子・C子には、皆の前でこの動物園を披露する機会を設けた。2人の自信と他の子の「作ってみたい」という意欲に繋げられたのではないかと思う。



イチヨウの葉の動物



○春～秋・・・さつま芋栽培(全年齢)

さつま芋の苗植え後、園庭の土を掘り返して、そこへ抜いた草を植えて苗植えごっこをする姿があった。畑が園外にあるので、散歩に行き生長の様子を見てきた。葉柄取りでは、「自分の分」「家族の分」と言いながら取っていたが、途中でツルを持って土手の上下で引っ張りっこをしたり、土手を転がったりして楽しんでいた。葉柄は家庭に持ち帰る。(調理の仕方を園だよりで保護者に伝えた)翌日の遠足には、お弁当のおかずに入れてきた子もいて、「おいしい」と言って食べていた。

ツルは園に持ち帰り、リースを作った。残りのツルを使って、「蛇だ～」と持って歩いたり縄跳びに

したりして楽しんだ。掘ったさつまいもは、園庭で焼き芋会をして食べた。「また食べたいね」の声がしばらく聞かれるほど味わい深かった。

〈考察〉

さつまいもから多くの遊びが発展し、子ども達は五感を使っていろいろな遊びを体験できた。また、「毎年この時期に葉柄が届くのを楽しみにしています」という家庭もあり、関心があることが伺えた。

● 11月・・・とちの実ころがし(以上児)

どんなことをして遊んでくれるかなと思いながら、ホールに、とちの実と1mくらいの筒を用意しておいた。まずは、年少児がステージの段差を利用して次々と、とちの実を転がして遊んだ。すると、年中児が昨年度壁に筒を貼り付けてとちの実を転がして遊んだのを思い出し、「また作ろう」と言う。次の日、トイレトペーパーやラップの芯、カップ、牛乳パックなどを用意しておく、昨年と同じ場所に作り始めた。子ども達からどんどんとアイディアが出て日に日にサーキットが増えていった。年長児から筒の所に「絵を描きたい」と言う声が聞かれ、さらに、賑やかになる。送迎時に子ども達が楽しんで遊んでいるものを、保護者に見ていただいた。

〈考察〉

材料を用意しておいたことで、年中児が昨年経験したことを思い出しどんどん遊びを作り上げ、園全体で楽しむことができた。また、子どもと保護者で楽しさを共有することができた。誰かと楽しさを共有することで、更に遊びが盛り上がり、一つとして同じ形のない自然物だからこそ、いつも違った動きをするので、その魅力が遊びを継続させたのではないかと思う。

● 12月・・・ミカンの皮アート(3歳児)

給食にミカンが出た時に保育士がヘビを作って見せると、子ども達から歓声が上がり、「やりたい、やりたい」と声が上がったので、みんなでやってみようと挑戦した。給食を食べ終わった子から皮を剥き始める。ゆっくり剥いて長くできる子もいれば、すぐに皮が切れてしまう子もいる。剥いた皮に目と口を付け、机の上に並べて廊下に展示した。迎えに来た保護者に「これDが作ったヘビだよ」と教え「上手にできるんだね」と褒められると得意気で嬉しそうだった。再びミカンが給食に出ると食べ終わった子から皮を剥き始める。縦に剥く子やすぐに切れてしまう子もいたが、再挑戦したり、親指を器用に使ってそっと剥く子もいて上達が見られる。「Eちゃん上手だね、長いね」と友達の出来栄を褒めたり、自分で作った物を自慢したりと盛り上がっていた。「家でも作った」という子もいた。

〈考察〉

同じものができない素材だからこそ、どこを剥くとどんな形になるか考えながら取り組む姿が見られ、子ども達の工夫や発想が膨らんだように思う。年末年始、家族でゆったり遊ぶきっかけになったようだ。

● 2月・・・氷を作ろう

〈保護者の感想より〉

・氷と自然物でかわいい物が作れるということを知り、家でも冬の遊びの1つとしてやってみたいと思いました。

・楽しく準備していました。容器に水を入れて、ミカンの皮とキャベツを入れました。(いろどりは良かったです)「外に置いたらどうなるかな」と聞いたら「凍るんだよ。保育園にあった」と教えてくれました。出来上がった氷を見るより準備が楽しかったみたいです。



ヘビだあ～



氷フェイス

○冬・・・氷フェイス(4歳児)

事前に「顔を作って遊ぼう」と話し、子ども達と木の実などの自然物を集めた。顔を作るための容器に雪を入れに行くと、素手で触る雪の感触に「冷たい」「固い」「痛い」と歓声をあげる。雪の画面へ木の実の置き場所を慎重に選ぶ子が多く、枝等は置き場所や角度を変えることで笑顔になったり、怒った顔になったりする事に気付き、友達と会話したり見せ合ったりしながら思い思いに楽しむ。翌日、どうなっているか見に行くと、雪が固くなっている状態変化に喜び「固い」「もうくっついてる」と口々に話し、この上に雪が積もったら顔が隠れてしまうだろう、鳥が赤い実をつついてしまうだろう、でも凍っているから取れないのではないかと想像を膨らませていた。数日後、雪が解け氷の中に顔ができてすることに驚き「変身した」と大騒ぎになる。目などの位置が変わってしまい、滑稽な表情になっているものもあって見比べては笑っていた。

〈考察〉

赤い実を置く位置や枝の太さや長さ、角度を工夫し顔の変化を楽しむなど、子ども達にとっては驚きと発見の連続だった。友達と見せ合い言葉を交わす中で、様々な考えがあることも知り、一緒に育ち合う姿を感じることができた。

IV 活動を振り返って

- 1 五感を刺激しながら遊んだり体験したりすることで、いろいろなことに気付いたり、もっと知りたい、もっとやってみようといった気持ちが育っているように感じる。
- 2 保育士からの発信・環境作りで、経験した遊びを繰り返したり、その変化を見守ったり、他の自然物や素材で応用して遊ぶなど一人一人が創造力を湧き立てて遊びを発展させていく姿がたくさん見られた。そこに、子ども達の底力、興味関心の大切さ、心が動く瞬間を見て取ることができ、一つとして同じものがない自然物の魅力を改めて知ることができた。
- 3 自然の物を使った遊びを家庭に知らせたことで、保護者が幼いころに経験した遊びを思い出し、懐かしみ、興味関心を持って楽しんでもらえたと思う。大人が楽しんでいる姿は、子ども達の意欲を引き出すきっかけになったと感じた。
- 4 製品化されている玩具では味わえない自然物を使った遊びの楽しさを子ども達へ伝えていくためにも、継続して保護者に発信していこうと思う。
- 5 自然豊かな環境にいる中でも知らないこと、やったことのない遊びを保育士自身が調べたり、情報を共有したりすることで、意識的に自然物に目を向けることができた。また、日々の保育の中に取り入れ、子ども達や家庭に伝えることができたが、予想以上に子ども達からは多くの豊かな発想があり、改めて自然環境の重要性を感じた。



園での遊び

保護者への
遊びの提供

はる

カラスノエンドウの笛
ヨシの笛
シロツメクサ・アカツメクサなどで
アクセサリー作り
花びら集め 草花の花束作り
ツクシ・スギナどこ取れてるか
チューリップの花びらで
ジュース屋さん



タンポポ笛・水車
草花ビンゴ



シロツメクサを
編んでみよう

ササ舟
ササ (ヨシ) 笛

なつ

タンポポの茎 (笛・玉吹き・
シャボン玉)
タンポポ (ロケット・綿毛飛ばし
アクセサリー作り)
オオバコずもう
草花で色水作り・ままごと
ナズナの鈴 木登り
水たまりに草を浮かべて釣りごっこ



ダンゴ虫
アリ
ゴミムシ
アオムシ
カナヘビ
ミミズ
幼虫
アリジゴク
地グモ

クズのムカデ
アサガオの空気鉄砲
・風船

あき

葉っぱの船・鉄砲・お面
泥んこ遊び
エノコログサの毛虫・うさぎ
・ひげ・ランプ
とうもろこしの皮でままごと
草花や摘果したりんごを使って
お弁当作りごっこ
草木染 (赤ジソ・あさがおなど)
野菜のスタンプ
草花ファッションショー
ピョンピョン鳴子びえ
メヒシバ (ハートステッキ・パラソル)



チョウ
テントウ虫
カマキリ
カエル
カタツムリ
クワガタ
カブトムシ
セミ
(抜け殻)
カナブン

コスモスのプロペラ
メヒシバのパラソル



どんぐり落とし
イチヨウの葉の
動物たち

ふゆ

木の実を使って (落としゲーム
・転がしゲーム・コマ・けん玉
マラカス・ヘリコプターなど)
マツボックリのトントングずもう
アリケンダンクサクつつっこ
さつま芋のツル (リース・縄跳び
・引っ張りっこ・釣りごっこなど)
残った夏野菜でままごと
落ち葉 (冠・ペンダント・お風呂
・投げっこ・こすりだしなど)
柊ガシのつぼみで綿あめごっこ
わらの家作り

バッタ
トンボ
コオロギ
イナゴ
ウマオイ
キリギリス



とちの実ころがし
けん玉・マラカス



ミカンの皮アート
ピーナッツの殻人形



カブトムシ
の幼虫

氷作り・氷フェイス



雪遊び (雪だるま・雪像・かまくら
・滑り台・温泉ごっこ・雪の布団
・そり・けつぞりなど)
氷(ツララ)探し・氷集め 霜柱踏み
かき氷・アイスごっこ
氷作り (色水・花氷など)

